



関東ジュニア大会18歳以下
女子単優勝 神鳥 舞選手



関東ジュニア大会18歳以下
男子単優勝 守谷 岳選手



CONTENTS

「科学的ティーチングの重要性について」

関東テニス協会会長 寺澤 辰麿	2	DUNLOP SRIXON全日本ジュニアテニス選手権'19	11
第93回 関東オープンテニス選手権大会	3	第5回グラスホパージュニアテニスカンプ	12
第93回 関東ジュニアテニス選手権大会	5	第58回関東実業団対抗テニストーナメント	13
PLAY & STAYイベントの報告		第34回関東実業団対抗テニスリーグ戦	13
第37回 第一生命 全国小学生テニス選手権大会	8	第43回全日本都市対抗テニス大会	14
ATF 14/U須玉国際ジュニアテニストーナメント2019	9	第74回いきいき茨城ゆめ国体2019テニス競技	14
第46回 全国中学生テニス選手権大会	10	第28回指導者のためのリフレッシュ講習会	15
令和元年度全国高等学校総合体育大会	10	委員会よりお知らせ(審判委員会)	15

科学的ティーチングの重要性について



テニスを始めてから20年余り経つが、最近レッスンで教えられている身体の動かし方を最初から学んでいれば、テニスの腕前ももっと上達したのではないかとしみじみ感じている。技術の進歩は日進月歩であり、道具も良くなっているので、それに対応した身体の動かし方とトレーニングが必要とされていると思う。

現在、テニスレッスンで学んでいることは、サービス、ストローク、ボレー、スマッシュなどあらゆる打ち方について、肩甲骨と骨盤・股関節を意識し、身体の重心の位置をぶれないようにする動きである。これは、最近のスポーツ科学の進歩に基づいて、身体の骨格と筋肉の構造を科学的に分析し、身体をどのように動かせば力が有効に出せるかということシステムティックに解明した成果である。

テニスについては、人は、強い球を打とうと意識すると、本能的に腕に力が入り、振り幅が大きくなり、また、腕で強く打つ傾向があるが、その結果、テニスエルボーを患い、また、重心が前に倒れてネットに掛けてしまう等の様々な失敗の原因となる。これに対し、ジョコビッチや錦織のような世界的な有名選手の身体の動かし方を、AI等の最新技術によりデータ分析し、それに運動生理学や物理の法則を融合させた科学的知見に沿って初めから教われば、このような動きはなくなり、また、身体の故障も少なくなる。この科学的知見に基づいて、新たなティーチングメソッドが開発され、実際のコーチングに適用され、また、骨格と筋肉のトレーニングにより体幹を鍛えれば、腕に力を入れなくても勢いのある球を打つことができるようになる。

私自身、これまで上手くなろうと必死に型にこだわり、それを真似ようと努力してきたが、なかなか成果が出ないと感じてきた。上級者の打ち方を見ているだけでは、身体の動かし方の根本を知らなければ、真似をすることはできないことにやっと気づかされたのが、最近のことである。新しい指導法により、納得感をもって、これまでの本能的な間違いを修正しようと練習しているが、一度身についた癖を取り去ることはとても厳しい。意識しないで身につくようにしたいと思うが、70歳を超える年齢では至難の業である。何事も、初めが肝心と痛切に感じる。

このような指導方法の改革は、テニスに限らず、あらゆるスポーツ種目に応用され、新たな知見を修得したコーチが指導する選手の活躍が注目されている。

ゴルフでは、従来の代表的な指導法は、例えばボブ・トスキヤデビッド・レッドベターの有名なコーチが、それまでの打ち方を一変させたが、今日では、歴代の名プレイヤーのスイングを科学的に分析した新しいメソッドがティーチングに採り入れられている。

私の経験では、ゴルフスイングの修正の方が少し楽なようである。ダウンスイングで重心を保ち(一軸で)、骨盤から尾てい骨を押し込む感覚でインパクトすると、球筋が安定するような気がする。

最後に、「初めが肝心」という私の経験を紹介したい。2018年の2月25日は、私の71歳の誕生日であったが、ちょうど東京マラソンが開催される日に当たっていた。古希を過ぎ人生の節目でもあったので、思い切ってこれに挑戦してみる決断をした。実は、その前々年に、始めて横浜マラソンに出場して15キロ付近で両足痙攣を起し、転倒して完走できなかったという過去がある。そのため、今回は完走を目指し、旧知の谷川真理さんにマラソンの走り方と練習方法の教を乞うこととした。谷川さんのティーチングポイントは、膝を使って走るのではなく骨盤を前に出して走るという走法である。最初は、5キロも走れなかったのが、10キロ、20キロと徐々に走れるようになり、東京マラソンを時間内に完走することができた。途中、脱水症状によるこむら返りが起きたが、沿道で応援していた親切な青年から芍薬甘草湯をいただき、なんとか走り続けられ、目的を達した次第。

何事も、理にかなった指導を早く受けることが、上達の近道であると痛感している。



関東テニス協会会長
寺澤 辰磨

第93回関東オープンテニス選手権大会

一般の部: 2019年5月20日(月)~5月25日(土) 予選5月17日(金) 昭和の森
 ベテランの部: 2019年5月13日(月)~5月19日(日) 小田原、厚木(18日~小田原)、千葉蘇我、栃木、東京世田谷(~18日)
 5月20日(月)~5月26日(日) 小田原(~27日)、千葉蘇我 ベテラン5会場



一般の部

第93回関東オープン選手権大会一般の部は、例年開催していた有明テニスの森公園コートがオリンピック会場改修のため全面使用できず、男女とも昭和の森テニスセンターコートで開催されました。

男子の単は、学生同士の対決となり、筑波大学の川橋選手が連覇しました。複は、社会人ペアに接戦の末、川橋・正林組が初優勝しました。

女子の単はプロの小林選手が初優勝しました。複は、実業団で活躍の井上・西本組が優勝しました。

今大会は、天候にも恵まれ、特に若手選手の活躍が目立ち、今後が期待される大会でした。



川橋 勇太 千頭 昇平

○一般男子シングルス

菊池 玄吾(エキスパートパワーシズオカ)	}	千頭	}	川橋
千頭 昇平(早稲田大学)		75 75		
白石 光(早稲田大学)	}	川橋	}	
川橋 勇太(筑波大学)		62 76(3)		



川橋 勇太 正林 知大 喜多 元明 芝田 雅司

○一般男子ダブルス

喜多 元明(リコー)	}	喜多・芝田	}	川橋・正林
芝田 雅司(リコー)		62 46 [10-7]		
大和田 秀俊(リコー)	}	川橋・正林	}	
池田 悠人(中央大学)		63 64		
川橋 勇太(筑波大学)	}		}	
正林 知大(HOS TENNIS)				
小野田 賢(あきやま病院)	}		}	
松崎 勇太郎(イカイ)				



小林 ほの香 小野 七星

○一般女子シングルス

小林 ほの香(プロ・フリー)	}	小林	}	小林
倉持 美穂(早稲田大学)		76(6) 62		
長船 香菜子(テニスユニバース)	}	小野	}	
小野 七星(G.T.S)		57 60 64		

○一般女子ダブルス

井上 明里(橋本総業ホールディングス)	}	井上・西本	}	井上・西本
西本 恵(島津製作所)		75 62		
朝倉 菜月(亜細亜大学)	}	尾関・長船	}	
竹内 あやか(法政大学)		64 75		
尾関 彩花(テニスユニバース)	}		}	
長船 香菜子(テニスユニバース)				
古屋 美智留(プロ・フリー)	}		}	
森本 風咲(プロ・フリー)				



井上 明里 西本 恵 尾関 彩花 長船 香菜子

ベテランの部

第93回関東オープン選手権大会ベテランの部は、全日本ベテランに次ぐベテランJOPのBグレード大会として、5月13日(月)から2週間にわたり、小田原テニスガーデン、南毛利スポーツセンターテニスコート、蘇我スポーツ公園フクダ電子ヒルスコート、栃木総合運動公園テニスコート、ゆうほうと世田谷レクセンターの5会場で、各主管都県協会の運営、ご協力により開催されました。

本大会は、第17回関東オープン選手権大会(昭和16年)の壮年種目として45歳以上の選手が参加して始まりました。今年は、男子・女子とも35歳以上～85歳以上の単複合計39種目(女子35歳単複・女子85歳単複は不成立)に、全国からシングルス990名、ダブルス421組の選手が参加し、各会場で熱戦が繰り広げられました。

一般と変わらぬような35歳の選手、85歳を過ぎてもなお競技者としてプレーする選手の姿に、生涯スポーツとしてのテニスの幅広さ、奥深さ、素晴らしさを改めて痛感させられました。

来年も参加される選手にとって、より良い大会になるようベテラン委員会を挙げて、努力していきたいと思えます。

ベテランの部 優勝者・ペア

男子35歳以上S	石塚 翼 (& T A)	男子85歳以上S	岡田 進 (三重グリーンテニスクラブ)
男子35歳以上D	浦部 俊之 (チームU&T)	男子85歳以上D	岡田 進 (三重グリーンテニスクラブ)
	中嶋 慶太 (杉並区テニス連盟)		宮地 邦雄 (アイ・テニスクラブ)
男子40歳以上S	山岸 徹郎 (SEEKERS TENNIS)	女子40歳以上S	高橋 えみ子 (テニスプロジェクト)
男子40歳以上D	板東 賢寛 (ミナミテニスクラブ)	女子40歳以上D	原 紳子 (VIP・TOPグループ)
	根本 修宏 (大田区テニス連盟)		瀧川 友美 (テニスユナイテッド)
男子45歳以上S	右近 貴志 (Quon Mineral)	女子45歳以上S	笠井 和子 (松原TC)
男子45歳以上D	右近 貴志 (Quon Mineral)	女子45歳以上D	倉掛 順子 (チームオクヤマ)
	高橋 良昌 (二本松眼科)		奥山 律子 (テニスユナイテッド)
男子50歳以上S	崔 城薫 (Ishii Tennis Academy)	女子50歳以上S	青木 奈央 (IHSMアリーナ)
男子50歳以上D	太田 茂晴 (Leads)	女子50歳以上D	久松 紀美江 (TTC)
	興石 龍児 (川口市役所)		松永 明子 (TTC)
男子55歳以上S	佐藤 幸裕 (S・T・P)	女子55歳以上S	岡川 恵美子 (チームウインフィールド)
男子55歳以上D	沼尻 満男 (JSPI)	女子55歳以上D	鈴木 裕美子 (横浜ガーデンテニスクラブ)
	佐藤 幸裕 (S・T・P)		蝦澤 一子 (サークル・M)
男子60歳以上S	田中 英次 (三和テニススクール)	女子60歳以上S	小泉 幸枝 (プロ・モリタテニス企画)
男子60歳以上D	廣岡 孝通 (KPI)	女子60歳以上D	佐谷 眞理 (プロ・ミズノ)
	倉島 英造 (東京ローンテニスクラブ)		小泉 幸枝 (プロ・モリタテニス企画)
男子65歳以上S	石田 享司 (横浜スポーツマンクラブ)	女子65歳以上S	中山 明代 (大正セントラルテニスクラブ目白)
男子65歳以上D	鎌田 幸年 (小金井市テニス連盟)	女子65歳以上D	境 真由美 (横浜スポーツマンクラブ)
	神山 好弘 (キリウテニスクラブ)		森山 郁野 (SPTC)
男子70歳以上S	竹下 友基 (アイ・テニスクラブ)	女子70歳以上S	金澤 博子 (京王テニスクラブ)
男子70歳以上D	前田 克己 (千葉田園テニスクラブ)	女子70歳以上D	間 美紀子 (リトルプリンス)
	朝倉 伸行 (オレンジヒルテニスクラブ)		高橋 かず子 (キャッツアイ)
男子75歳以上S	桐原 清徳 (和泉テニスクラブ)	女子75歳以上S	鈴木 正枝 (セントマリアホスピタルT・C)
男子75歳以上D	古谷 和男 (駒ヶ根テニス協会)	女子75歳以上D	岩崎 紀久代 (双実テニスクラブ)
	今中 隆雄 (ブルドンウィン)		麻生 みね子 (田柄テニスクラブ)
男子80歳以上S	谷津 正次 (ボブラ倶楽部)	女子80歳以上S	沼 幸子 (明治神宮外苑テニスクラブ)
男子80歳以上D	前田 忠昭 (鎌倉ローンテニスクラブ)	女子80歳以上D	塩田 惺子 (芦屋国際ローンテニスクラブ)
	藤井 道雄 (東京ローンテニスクラブ)		松村 仁子 (フラワーテニスクラブ)

第93回関東ジュニアテニス選手権大会

2019年7月13日(土)~7月18日(木) 予備19日(金) 会場:アポロコーストテニスクラブ



○18歳以下男子シングルス

横山 蒼馬 (秀明英光高校)	6-4 3-6 6-3	横山 蒼馬	6-3 6-7(7) 6-1	横山 蒼馬
加藤 木 星 (埼玉平成高校)		佐藤 大輝		
藤岡 凌 大 (早稲田実業学校高等部)	6-4 6-7(8) 6-1	佐藤 大輝	6-3 6-7(7) 6-1	守谷 岳
佐藤 太 耀 (法政大学第二高校)		守谷 岳		
守谷 岳 (浦和学院高校)	4-6 6-2 6-3	守谷 岳	6-3 7-6(6)	守谷 岳
石井 涼 太 (INABA T.S.)		平野 太陽		
横田 大 夢 (ETC)	6-2 6-3	平野 太陽	6-3 7-6(6)	守谷 岳
平野 太陽 (TEAM YONEZAWA)		守谷 岳		

○18歳以下男子ダブルス

田中 瑛 大 (荏原SSC)	6-3 6-4	小坂・平野	3-6 6-3 [10-5]	小坂・平野
赤西 大 樹 (慶応義塾高校)		望月・鈴木		
小坂 祐 生 (早稲田実業学校高等部)	7-6(2) 2-6 [11-9]	望月・鈴木	7-6(2) 2-6 [11-9]	望月・鈴木
平野 太陽 (TEAM YONEZAWA)		望月 澁太郎		
青木 一 晟 (湘南ロンテニスクラブ)	7-6(2) 2-6 [11-9]	望月 澁太郎	7-6(2) 2-6 [11-9]	望月 澁太郎
齋 藤 成 (湘南工科大学附属高校)		鈴木 久 統		
望月 澁太郎 (荏原SSC)	7-6(2) 2-6 [11-9]	鈴木 久 統	7-6(2) 2-6 [11-9]	望月 澁太郎
鈴木 久 統 (荏原SSC)		望月 澁太郎		

○16歳以下男子シングルス

小泉 照 毅 (さくら野火止テニスアカデミー)	7-5 6-1	小泉 照毅	6-4 7-6(4)	小泉 照毅
山内 日 斗 (フジエース市川テニスアカデミー)		清水 勇至		
清水 勇 至 (浦和学院高校)	6-0 6-3	清水 勇至	6-2 7-6(5)	代島 侑真
上野山 大 洋 (上野山テニススクール)		森田 卓介		
石川 真 輝 (東海大学菅生高校)	6-2 7-6(5)	森田 卓介	6-3 7-6(9)	代島 侑真
森田 卓 介 (一筆テニスクラブ)		代島 侑真		
代島 侑 真 (YC&AC Junior Tennis Academy)	6-3 6-2	代島 侑真	6-3 6-2	有本 響
有本 響 (慶応義塾高校)		有本 響		

○16歳以下男子ダブルス

勝田 匠 (日本大学第三高校)	6-2 7-5	勝田・野村	6-1 6-4	上野山・森田
野村 侑 平 (日本大学第三高校)		上野山・森田		
出口 英次朗 (クワイエTA)	6-2 7-5	上野山・森田	7-6(2) 6-0	上野山・森田
布施 大 雅 (大島フアラテニスガーデン)		森田 卓介		
中台 凱 翔 (霞ヶ浦高校)	7-6(2) 6-0	森田 卓介	7-6(2) 6-0	上野山・森田
金田 拓 渡 (東京学館浦安高校)		上野山 大 洋		
上野山 大 洋 (上野山テニススクール)	7-6(2) 6-0	上野山 大 洋	7-6(2) 6-0	上野山・森田
森田 卓 介 (一筆テニスクラブ)		森田 卓介		

○14歳以下男子シングルス

坂本 健 英 (荏原SSC)	6-3 5-7 6-4	坂本 健英	7-6(3) 6-3	坂本 健英
増田 真 吾 (TENNIS SUNRISE 朝霞)		石井 博将		
石井 博 将 (京王赤城アカデミー)	6-4 6-1	石井 博将	1-6 6-2 6-4	本田 尚也
轟 佑 介 (桜田倶楽部)		石井 凌馬		
三城 貴 雅 (荏原SSC)	1-6 6-2 6-4	石井 凌馬	6-0 5-0 Ret.	本田 尚也
石井 凌 馬 (Team YUKA)		本田 尚也		
金田 晴 輝 (松原テニスクラブ'印西)	6-3 7-6(5)	本田 尚也	6-3 7-6(5)	本田 尚也
本田 尚 也 (サトウGTC)		本田 尚也		

○14歳以下男子ダブルス

多田 歩 純 (サムライPAL)	W.O.	多田・金田	6-3 6-4	三城・坂本
金田 晴 輝 (松原テニスクラブ'印西)		三城・坂本		
山本 拓 (Team YUKA)	6-4 6-0	三城・坂本	6-4 6-0	三城・坂本
石井 凌 馬 (Team YUKA)		三城 貴雅		
三城 貴 雅 (荏原SSC)	6-4 6-0	三城 貴雅	6-4 6-0	三城・坂本
坂本 健 英 (荏原SSC)		坂本 健英		
松田 一 優 (荏原SSC)	6-4 6-0	坂本 健英	6-4 6-0	三城・坂本
高橋 遼 介 (荏原SSC)		高橋 遼介		



優勝 守谷 岳 (浦和学院高校) 左

今回優勝した大きな要因はフットワークとメンタル面の向上だと思います。QF,SFの試合はタフな試合の連続できつい試合でした。今後の目標はインターハイと全日本ジュニアテニス選手権大会で優勝を果たすことです。近い将来は世界スーパージュニア大会やジャパンオープンジュニア、全日本選手権大会で活躍できる選手になれるように頑張ります。



優勝 小泉 照毅 (さくら野火止テニスアカデミー) 左

優勝の要因は、バックのクロスストロークを正確に打てる確率が上がったことです。全日本ジュニア選手権大会で優勝し、海外の選手権大会に挑戦することが近々の目標です。将来に向かっては全日本テニス選手権の優勝を目指します。



優勝 本田 尚也 (サトウGTC) 左

優勝の大きな要因は追い込まれた場面でも自分でやるべきことを明確にしてプレーが出来たことです。一年間の課題は自分から相手選手を追い込んで攻撃の出来る選手になることです。今年全日本ジュニア選手権大会での優勝を目指します。将来的にはウインブルドン大会での優勝を目指します。

○12歳以下男子シングルス

神山 宏正 (TEAM YONEZAWA)				
石橋 煌志 (吉田記念テニス研修センター)	6-1 6-2	神山 宏正		
櫻井 成 (桜田倶楽部)		黒田 湊太	6-3 6-2	
黒田 湊太 (Team 310V)	6-4 3-6 6-2			
内田 弘心 (シードテニスクラブ)		内田 弘心		神山 宏正
杉本 環 (ロイヤルSCテニスクラブ)	4-6 6-2 6-0			6-0 6-3
高橋 光 (神奈中テニススクール)		高橋 光	6-4 6-3	
畑 泰成 (グリーンテニスアカデミー)	6-2 4-6 6-3			

○12歳以下男子ダブルス

小島 凜 (桜田倶楽部)				
黒田 湊太 (Team 310V)		米野・鈴木		
米野 俊亮 (ミナグリーンテニスクラブ)	2-6 7-5 [11-9]			
鈴木 荘太郎 (一筆テニスクラブ)				
関師田 珀 (トータルテニスアカデミー)		櫻井・神山		
宇津山 立樹 (自由が丘インターナショナルテニアカレッジ)				
櫻井 成 (桜田倶楽部)	6-2 7-5			
神山 宏正 (TEAM YONEZAWA)				6-1 6-1

○18歳以下女子シングルス

神鳥 舞 (桜田倶楽部)				
山崎 郁美 (志津テニスクラブ)	7-6(3) 6-3	神鳥 舞		
山田 梨香子 (白鷺女子高校)		伊藤 沙里	6-2 6-3	
伊藤 沙里 (グリーンテニスアカデミー)	6-2 6-1			
浮田 愛未 (秀明英光高校)		浮田 愛未		神鳥 舞
早重 果波 (あじさいMTCアカデミー)	6-3 6-1			6-1 6-7(5) 6-4
丸 希星 (成田高校)		丸 希星	6-4 6-0	
石橋 彩由 (SCジュニアテニスアカデミー八千代)	6-4 3-6 6-2			

○18歳以下女子ダブルス

木村 薫 (吉田記念テニス研修センター)				
長門 桃子 (吉田記念テニス研修センター)		神鳥・笠原		
神鳥 舞 (桜田倶楽部)	0-6 3-2 Ret.			
笠原 綾乃 (緑ヶ丘テニスアカデミー)				
勝見 幸瑠 (MAT Tennis Academy)		勝見・山口		
山口 藍 (高崎テニスクラブ)				
丸 希星 (成田高校)	6-2 6-3			
田中 日南乃 (SOL Tennis College)				6-7 7-6(3) [10-4]

○16歳以下女子シングルス

奥脇 莉音 (F テニス)				
木島 菜々花 (Hills K-Nagatsuka TA)	6-2 4-6 6-2	奥脇 莉音		
池田 涼子 (YSC)		池田 涼子	6-1 3-6 6-2	
サッパ ナユマ (リビエラ選手マリーナテニススクール)	6-2 3-6 6-4			
宮本 幸奈 (Ken'sNaritaJuniorProject)		宮本 幸奈		奥脇 莉音
藤田 桃子 (志津テニスクラブ)	6-2 6-4			6-2 7-5
古賀 彩花 (吉田記念テニス研修センター)		古賀 彩花	6-2 6-1	
西 飛 奈 (白鷺女子高校)	6-1 6-2			

○16歳以下女子ダブルス

内島 舞子 (白鷺女子高校)				
西 飛 奈 (白鷺女子高校)		内島・西		
太田 南歩 (SOL Tennis College)	6-2 6-1			
菊池 綾実 (初石テニスクラブ)				
宮川 百合亜 (ウエスト横浜テニスクラブ)		中川・池田		
茅根 もも (MSS橋テニスアカデミー)				
中川 由羅 (リビエラ選手マリーナテニススクール)	6-1 6-0			
池田 涼子 (YSC)				6-3 6-3



優勝 神山 宏正 (TEAM YONEZAWA) 左
 試合中は自分から静かにプレーすることに心がけました。QFの試合では様々な苦労の上で勝つことができました。今後の目標は全国小学生テニス選手権大会、全国ジュニアテニス選手権大会で優勝することです。将来は世界一位の選手となり世界四大会全部に優勝することです。16歳で四大会のジュニアの部で優勝したい。



優勝 神鳥 舞 (桜田倶楽部) 左
 優勝の大きな要因は、最後まで勝ちたいという気持ち強く持って戦い抜いたことです。又、コーチ・先生・両親の応援が大きな励みになりました。今年は全日本ジュニア選手権大会で優勝を果たすことです。近い将来の望みは大学の選手権大会で活躍することです。



優勝 奥脇 莉音 (F テニス) 左
 ストロークのストレートを自信を持って打ったことが大きな要因です。また、準決勝戦の相手選手には過去に0-6のスコアで負けた選手でしたが、自分のテニスをして勝ったことで自信ができました。今年の目標はITFに参加し優勝することと全日本ジュニア選手権大会で優勝することです。

○ 14歳以下女子シングルス

大 脇 結 衣 (たちかわジュニアテニスアカデミー)	大脇 結衣	6-2 6-3	大脇 結衣	6-3 6-7(10) 6-1
須 藤 さ くら (TeamSatellite)	大脇 結衣			
西 野 菜 穂 (狛江イントアジュニアATPチーム)	小高 未織	6-3 6-1	大脇 結衣	6-1 6-3
小 高 未 織 (昭和の森ジュニアテニススクール)	丸山 麗菜	6-2 6-3		
小 安 穂 果 (たちかわジュニアテニスアカデミー)	丸山 麗菜	6-2 6-3	金巻 知里	7-6(4) 6-3
丸 山 麗 菜 (Team YUKA)	金巻 知里	6-3 2-6 6-2		
金 巻 知 里 (薬山テニスクラブ)	金巻 知里	6-3 2-6 6-2		
ク ロ ス リ ー 真 優 (ENDEAVOR)				

○ 14歳以下女子ダブルス

齊 藤 咲 希 (SOL Tennis College)	前田・大田	6-2 6-3	大脇・小高	6-1 6-3
田 邊 紗 瑛 (初石テニスクラブ)				
前 田 瑠 緒 (ユートピア大泉テニスクラブ)	大脇・小高	6-3 6-2		
太 田 貴 子 (成城ジュニアテニスアカデミー)				
明 場 凛 (YSC)				
鹿 島 璃 子 (YSC)				
大 脇 結 衣 (たちかわジュニアテニスアカデミー)				
小 高 未 織 (昭和の森ジュニアテニススクール)				

○ 12歳以下女子シングルス

辻 岡 史 帆 (SYT 月見野テニススクール)	辻岡 史帆	6-0 3-6 6-4	辻岡 史帆	6-1 6-0
山 上 夏 季 (TAI Tennis School)	辻岡 史帆			
園 部 八 奏 (与野テニスクラブ)	園部 八奏	4-6 7-5 6-1	辻岡 史帆	6-1 6-3
山 倉 実 桜 (CSAT)	長谷川 汎奈	6-4 6-4		
長 谷 川 汎 奈 (Team YUKA)	長谷川 汎奈	5-7 6-3 6-3		
梅 國 莉 音 子 (与野テニスクラブ)	熊谷 帆夏	6-4 6-7(6) 6-3		
影 山 海 結 (狛江イントアジュニアATPチーム)				
熊 谷 帆 夏 (荏原SSC)				

○ 12歳以下女子ダブルス

野 口 紗 枝 (レニックステニススクール)	上方・稲橋	6-7(3) 6-4 [10-8]	梅國・辻岡	5-7 6-2 [10-4]
長 岡 真 央 (レニックステニススクール)				
上 方 璃 咲 (あじさいMTCアカデミー)	梅國・辻岡	6-2 6-4		
稲 橋 ら ん (あじさいMTCアカデミー)				
影 山 海 結 (狛江イントアジュニアATPチーム)				
若 山 璃 音 (自由が丘インターナショナルテニスクラブ)				
梅 國 莉 音 子 (与野テニスクラブ)				
辻 岡 史 帆 (SYT 月見野テニススクール)				



優勝 大脇 結衣 (たちかわジュニアテニスアカデミー) 左
優勝の要因は1ポイントずつ丁寧にプレーが出来たことです。今の目標は全日本ジュニアテニス選手権大会の単複で優勝することです。将来は全豪オープンテニス選手権大会の本戦に出場することが夢です。



優勝 辻岡 史帆 (SYT 月見野テニススクール) 左
優勝した大きな要因は試合の中の大事なポイントのところで冷静に試合をはこべたことです。この一年間は全日本ジュニアテニス選手権大会に優勝して、海外でも勝てるような選手を目指します。将来は四大大会に出場してセンターコートに立って優勝することを望んでいます。

関東ジュニア選手権会場でのPLAY&STAYイベントの報告

日程:2019年7月13日(土)~14日(日) 場所:白子地区テニスコート8面使用

指導を田辺 学委員、横松尚志委員、補助を東洋学園大学テニス部員3名による運営。

8歳前後のジュニアプレイヤーを対象としてレッドオレンジボールクラス及び10歳前後のジュニアプレイヤーを対象としたグリーンボールマッチ練習会を行った。

レッドオレンジボールクラスは初日9名参加も翌日は雨天のため残念ながら中止。

グリーンボールマッチ練習会は初日2回に分けて2時間ずつ、それぞれ14名、28名の参加があり盛況だったが、翌日は雨模様の中、参加者の希望で午後のみ定員いっぱいの30名で実施した。



<受付風景>

第37回 第一生命全国小学生テニス選手権大会

2019年7月27日(土)～30日(火) 会場:第一生命相模園グラウンドテニスコート



2019年全国小学生テニス選手権大会は7月27日(土)～30日(火)まで相模園グラウンドテニスコートにおいて開催された。ドントの計算ミスで男子は直前にリドローされ、変則の66ドロの組み合わせとなり、女子は従来通り64ドロの組み合わせであった。

男子は66選手のうち18選手27%、女子は64選手のうち17選手26%が関東勢であった。

ベスト16に勝ち進んだ段階で、男子は8選手が、女子も8選手が関東勢であった。

男子準々決勝では、1シードの畑(埼玉)と6シード杉本(千葉)の対戦は強気に攻める両者は1セットオールからファイナル75で畑選手が勝ち進んだ。4シードの神山(東京)は横堀(新潟)を終始落ちて攻め63 61のストレートで退けた。8シード太田(長崎)は3シードの鈴木(大阪)に36 75 63の接戦の末退けた。11シードの黒田(東京)は2シード永田(大阪)と1セット目をタイブレークの10対8で落とし、その勢いそのまま永田に押されてストレートで敗れた。畑と神山の準決勝はお互いに攻めているのであるがミスが多い畑に対して落ちて攻め目立つ神山が63 63のストレートで決勝に進出した。太田と永田の準決勝は永田に分があり64 61のストレートで決勝に進んだ。

神山と永田の男子決勝は終始落ちていたテニスを展開した神山が64 62のストレートで永田を下し優勝した。

女子準々決勝では1シードを破って勝ち上がった小澤(北海道)と5シードの大江(愛知)との対戦であったが、大江が力強いテニスで62 61のストレートで小澤を退けた。大井川(静岡)と五藤(岡山)の対戦は力強く攻め続ける五藤が64 61とストレートで制して勝ち進んだ。山倉(東京)と園部(埼玉)の関東勢同士の対戦は山倉の攻めに分があり62 64のストレートで園部を退けた。前田(埼玉)と長谷川(神奈川)との対戦は長谷川が一方的に62 63で前田を退け準決勝に進出した。女子準決勝は大江と五藤、山倉と長谷川の対戦である。大江は五藤の力強い攻めに対して食い下がったが、五藤の攻めが上回り62 60のストレートで決勝に進出した。山倉と長谷川の対戦は64 75の接戦であったが長谷川が山倉を制し決勝に進んだ。

五藤と長谷川の決勝は、五藤の攻めがますます力強く決まり、61 60のストレートで長谷川を下し優勝した。

準決勝以上の結果

男子シングルス

畑 泰成 (埼玉)	}	神山	}	}	}
神山 宏正 (東京)		63 63			
太田 周 (長崎)	}	永田			
永田 瞬 (大阪)		64 61			
			64 62		

女子シングルス

大江 真央 (愛知)	}	五藤	}	}	
五藤 玲奈 (岡山)		62 60			
山倉 実桜 (東京)	}	長谷川			
長谷川 汎奈 (神奈川)		64 75			
			61 60		



右から男子優勝の神山、2位永田、3位畑・太田



左から女子優勝の五藤、2位長谷川、3位大江・山倉

ATF 14/U 須玉国際ジュニアテニストーナメント2019 Week-2

2019年6月29日(土)～7月5日(金)山梨県北杜市・クラブヴェルデ



ATF(アジアテニス連盟)公認の14/U須玉国際ジュニアトーナメントが今年も実施されました。今年の海外勢は男女合わせて6名の参加がありました。関東勢においては男子シングルス、女子シングルスともベスト8以上に6名が残り、例年通り関東優勢となりました。大会期間中は梅雨のため雨天が多く、決勝戦もインドアで行われ、男子は三城貴雅(荏原SSC)が金田晴輝(松原テニスクラブ印西)に6-4,6-3で勝利し、女子はクロスリー真優(ENDEAVOR)が藤田真由(Team YUKA)に6-0,6-2で勝利しました。二人共ストロークの安定感がどの選手より抜き出していた印象でした。また例年通りシングルス本戦はコンパストローにより32位まで決定し、各位ポイント付与および表彰を行ないました。この大会では、毎年選手自身が書いたプロフィールなどを写真付きで掲示し大変好評を得ています。また今回も男女シングルス優勝者には、8月に行われるITF兵庫国際ジュニアテニストーナメントの予選出場権が授与されました。



<写真左から>男子単優勝の三城貴雅、男子単準優勝の金田晴輝、女子単優勝のクロスリー真優、女子単準優勝の藤田真由

(男子シングルス順位)<1～10位まで>

- 優勝 三城貴雅(荏原SSC)
- 準優勝 金田晴輝(松原テニスクラブ印西)
- 3位 石井凌馬(Team YUKA)
- 4位 山本 拓(Team YUKA)
- 5位 藤岡呂嵩(西尾ローンTC)
- 6位 松田一優(荏原SSC)
- 7位 犬塚隆介(アイTC大阪)
- 8位 大桐壮央(ルーセントジュニアTA大阪)
- 9位 柳 志佳(Team YONEZAWA)
- 10位 高橋凜羽(京王赤城アカデミー)

(女子シングルス順位)<1～10位まで>

- 優勝 クロスリー真優(ENDEAVOR)
- 準優勝 藤田真由(Team YUKA)
- 3位 藤本舞衣(ファインパルイワタTC)
- 4位 山上夏季(TAI Tennis School)
- 5位 名雪 芹(荏原SSC)
- 6位 野村美晴(ダンロップTS大阪)
- 7位 永田奈々(CSAT)
- 8位 矢口絢菜(たちかわジュニアテニスアカデミー)
- 9位 畷 凜花(江坂テニスセンター)
- 10位 松本多恵(高崎テニスクラブ)

<男子ダブルス>

- 優勝 金田晴輝(松原テニスクラブ印西)
松田一優(荏原SSC)
- 準優勝 犬塚隆介(アイTC大阪)
大桐壮央(ルーセントジュニアTA大阪)

<女子ダブルス>

- 優勝 クロスリー真優(ENDEAVOR)
名雪 芹(荏原SSC)
- 準優勝 山田彩萌(名古屋ローンTC)
横溝七海(八王子テニスアカデミー)



<写真左が金田・松田組>



<写真左がクロスリー・名雪組>



<話題の選手のプロフィール>

第46回全国中学生テニス選手権大会

大阪府大阪市 マリンテニスパーク北村 2019年8月18日(日)~24日(土)



男子団体戦: 聖徳学園(東京)が小平市立小平第二(東京)に3-2で勝利し、嬉しい初の全国制覇となった。また成蹊(東京)がベスト4。サレジオ学院(神奈川)がベスト8となった。

女子団体戦: 小平市立小平第二(東京)がベスト4。桐光学園(神奈川)、横浜市立岡野(神奈川)、横浜市立金沢(神奈川)がベスト8となった。

男子シングルス: 石島丈慈(神奈川県・横浜国立大学教育学部附属鎌倉)がノーシードから勝ち上がり見事準優勝となり、松岡 隼(神奈川県・湘南学園)と古姓寛樹(埼玉県・春日部共栄)がベスト4となった。

女子シングルス: 石井さやか(東京都・渋谷区立松濤)が2年生ながら準優勝となった。長谷川采香(東京都・国分寺市立第三)がベスト4となった。

男子ダブルス: 橋本圭史・池澤永真組(千葉県船橋市立船橋)が準優勝。他ベスト8に3組が入った。

女子ダブルス: 明場 凜・鹿島璃子組(横浜市立岡野)が1年生ペアながらベスト4に進出。今後に期待したい。

初の大阪開催となった今大会は、団体戦は雨天に見舞われスケジュール変更を余儀なくされたが、その後天候が回復しスケジュール通り全日程が終了した。男子団体戦においてはベスト4に関東勢が3校進出し関東の層の厚さが窺えた。来年は東海地区での開催が予定されている。

また、念願であった日本中体連の加盟は2021年に準加盟見込みである。

令和元年度全国高等学校総合体育大会 テニス競技

(団体の部)2019年8月2日(金)~8月4日(日)3日間、(個人の部)2019年8月5日(月)~8月8日(木)4日間
KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園庭球場、宮崎市生目の杜運動公園テニスコート



今年のインターハイはKIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動場の24面、宮崎市生目の杜運動公園16面と大変恵まれた環境の中での開催でした。

関東勢は男子団体: 湘南工大附(神奈川)が準優勝、女子: 早稲田実業(東京)が優勝と大変素晴らしい成績をあげてくれました。個人戦でも関東勢が大活躍。男子シングルスでは下村亮太郎(慶應義塾)、松下龍馬(秀明英光)がベスト4になり、女子シングルスでは浮田愛美(秀明英光)が準優勝、神鳥 舞(早稲田実業)がベスト4となりました。男子ダブルスでは、横田・飯田組(足利大附)が準優勝、昨年度準優勝の松下・間中組(秀明英光)がベスト4になり、女子ダブルスでは大川・毛呂(法政二)が準優勝、伊藤・上伊倉(浦和麗明)がベスト4となりました。

宮崎大会では団体戦において熱中症で救急搬送される選手が続出し、団体戦の決勝は8ゲームプロセット、個人戦は台風の影響も考慮されて8ゲームプロセットから1セットマッチ、3セットマッチは8ゲームプロセットに変更されておこなわれました。年々、勝負の厳しさを増す夏のインターハイ。精神力、技術との戦いに加えて熱中症との戦いも考えなければいけない時代になってきました。オリンピックに向けても夏の暑さ対策が頻繁に話題になるこの頃です。暑い夏におこなう大会のあり方が喫緊の課題です。

DUNLOP SRIXON全日本ジュニアテニス選手権'19

supported by NISSHINBO

2019.8.8~8.16 江坂テニスセンター 2019.8.9~8.17 韮テニスセンター 予備日8/18



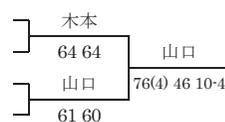
〇18歳以下男子シングルス

石井 涼太 (関東・INABA T.S.)
 藤原 智也 (関西・東山高)
 高畑 里玖 (関西・トップランAIOI)
 三井 駿介 (東海・アススポーツクラブ)



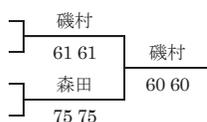
〇18歳以下女子シングルス

木本 海夢夏 (関西・トップランAIOI)
 照井 妃奈 (北海道・札幌啓成高)
 勝見 幸璃 (関東・MAT TA)
 山口 瑞希 (関西・城南学園)



〇16歳以下男子シングルス

磯村 志 (中国・やすいそ庭球部)
 菅谷 優作 (東北・ウイングショット)
 若松 玄登 (関西・パブリックTE)
 森田 卓介 (関東・一筆TC)



〇16歳以下女子シングルス

長谷川 愛依 (東海・名古屋LTC)
 森岡 きらら (関西・奈良国際TC)
 松田 絵理香 (関東・狛江インテアジュニアATPチーム)
 加藤 智子 (関西・Wacc)



〇14歳以下男子シングルス

松岡 隼 (関東・荏原SSC)
 服部 伶矢 (関西・TAKUセト京都)
 大桐 壮央 (関西・ルーセントジュニアアカデミー)
 山本 夏生 (関西・テニ・IFT)



〇14歳以下女子シングルス

齋藤 咲良 (関東・MAT TA)
 大山 華歩 (関西・チーム刺繍)
 金巻 知里 (関東・葉山TC)
 クロスリー 真優 (関東・ENDEAVOR)



〇12歳以下男子シングルス

神山 宏正 (関東・TEAM YONEZAWA)
 杉本 環 (関東・ロイヤルSCTC)
 鈴木 琉斗 (関西・TCコス・パハ尾南)
 永田 瞬 (関西・tennis365.net)



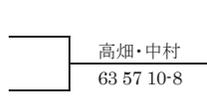
〇12歳以下女子シングルス

後藤 莓衣 (東海・Wish TC)
 大井川 鈴奈 (関東・プレスパティオ)
 五藤 玲奈 (中国・ラスタットTC)
 上野 梨咲 (中国・やすいそ庭球部)



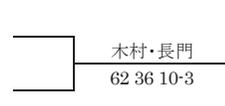
〇18歳以下男子ダブルス

池田 朋弥 (東海・誉高)
 三井 駿介 (東海・アススポーツクラブ)
 高畑 里玖 (関西・トップランAIOI)
 中村 秋河 (関西・トップランAIOI)



〇18歳以下女子ダブルス

南口 亜美 (中国・野田学園高)
 牛尾 真夕 (中国・野田学園高)
 木村 薫 (関東・吉田記念テニス研修センター)
 長門 桃子 (関東・吉田記念テニス研修センター)



〇16歳以下男子ダブルス

岡崎 開 (関東・自由が丘インターナショナルTCO)
 駒形 怜哉 (関東・TEAM YONEZAWA)
 丹下 颯希 (四国・新田高)
 片上 智貴 (四国・新田高)



〇16歳以下女子ダブルス

内島 舞子 (関東・白鷺女子高)
 西 飛奈 (関東・白鷺女子高)
 中島 怜亜 (中国・岡山学芸館高)
 齋藤 優寧 (中国・岡山学芸館高)



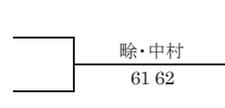
〇14歳以下男子ダブルス

多田 歩純 (関東・サムライPAL)
 金田 晴輝 (関東・松原TC印西)
 服部 伶矢 (関西・TAKUセト京都)
 中西 希平 (関西・アイトアステージ京都西)



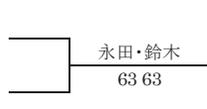
〇14歳以下女子ダブルス

畠 凜花 (関西・城南学園)
 中村 碧月 (関西・城南学園)
 井上 佳苗 (中国・やすいそ庭球部)
 高 絢果 (中国・UP.Set)



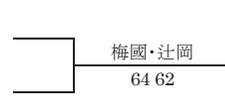
〇12歳以下男子ダブルス

櫻井 成 (関東・桜田倶楽部)
 神山 宏正 (関東・TEAM YONEZAWA)
 永田 瞬 (関西・tennis365.net)
 鈴木 琉斗 (関西・TCコス・パハ尾南)



〇12歳以下女子ダブルス

梅國 莉音子 (関東・与野TC)
 辻岡 史帆 (関東・SYT 月見野TS)
 大井川 鈴奈 (東海・プレスパティオ)
 小島 詠 (東海・プレスパティオ)



第5回グラスホパージュニアテニスクャンプ

～夢はウィンブルドンへ！

2019年8月17日(土)～8月23日(金) グラスコート佐賀テニスクラブ



『夢はウィンブルドンへ』をスローガンに優れたテニス選手になるには、単にテニスの技術や体力の向上だけではなく、日常生活の行動の質によって大きく差が表れます。この考えに立ち、『テニスと生活』というテーマのもとに小学生までに身につけてほしい『テニス』と、『生活』の獲得を目指し、1週間オンコート、オフコートを含め、選手たちの基本力レベルアップに取り組んでいくキャンプです。



～グラスホパーの歴史～ 小浦GMからの説明

第1回～10回までは、グラスコートでの試合を行う合宿でした。

5年前より、『テニスと生活』の基本習得合宿に変更。

昨年2018年より、『ROAD TO WIMBLEDON JAPAN』がはじまりました。

グラスコート佐賀テニスクラブとウィンブルドン選手権を主催する“All England Lawn Tennis and Croquet Club”との長年にわたるクラブ間の交流により、『ROAD TO WIMBLEDON JAPAN』を4月末の1週間開催しました。日本大会(国内予選)の戦績上位選手(ファイナリスト男女各2名)は、8月にイギリス/ウィンブルドンで開催される『ROAD TO WIMBLEDON FINALS』に招待されます。このような形で『グラスホパー、夢はウィンブルドン』は、進化成長しています。

～このキャンプのポイント～

- 心技体知(テニスプレイヤー、アスリートとしての知識と技術とココロを学ぶ)
- 自立、自律(集団生活を通して、身の回りのことは、自分でできるようにします)
- 食育(正しい食事の習慣を学びます)
- 遊ぶ、考える(豊かな発想を育みます)
- 礼儀、感謝(日頃の当たり前のようにやっていることは、誰かのおかげでできています)



これらを目的目標にし、1週間の集団生活が始まりました。

コーチとは？団体戦の監督、トレーナーによるトレーニング。選手にとっても、コーチにとっても最高の1週間です。

ぜひ、いろいろな選手たち、コーチたちにもこのキャンプに参加していただき、チーム関東として、レベルアップしてほしいと思います。来年も、『夢はウィンブルドン』を目指す元気いっぱいの選手たち、参加してください。

第58回関東実業団対抗テニストーナメント (ビジネスパル・テニス関東大会)

2019年7月13日(土)・14日(日) 会場:群馬県ALSOKぐんまテニスコート



関東1都7県から男子20チーム、女子12チームが参加。梅雨真っ盛りで連日の降雨の中、初日はほぼ天候に恵まれ試合は順調に進みました。また当日夜の懇親会は、14名の定員超過をホテルに対応して頂きました。2日目は朝から降雨の悪コンディションを物ともせず、熱戦が繰り広げられました。

試合結果は、男子優勝は新日本建設が2連覇、女子はルネサンスが初優勝。また上位入賞チームを見ますと、東京都及びその周辺県のレベルが高い感を強く受けました。なお、今回も女子チームが出場していない県があったことは継続的な課題であり、また女子のシードチームは初日に1回しか試合ができず、少なくとも2回は試合ができるようなドロウにしたいと思います。第58回全国実業団対抗テニス大会は、男子5チーム、女子6チームが出場します。全国大会での関東勢の活躍を祈念いたします。

最後に協賛を頂いたブリヂストンスポーツ株式会社殿、そして本大会運営関係者の多大なる御支援、御協力に深謝いたします。

男子	所属	チーム名	女子	所属	チーム名
優勝	千葉	新日本建設	優勝	千葉	ルネサンス
準優勝	東京	NTT東日本 東京	準優勝	東京	ヨネックス
3位	東京	みずほフィナンシャルG	3位	東京	JTB
4位	東京	日立製作所本社	4位	茨城	日立AMS佐和
5位	神奈川	相原聡税理士事務所	5位	東京	NTTデータ
5位	千葉	千葉市役所	6位	神奈川	平塚市役所
7位	神奈川	大和市役所	7位	神奈川	北里研究所
7位	埼玉	川口市役所	8位	千葉	日本航空



群馬銀行 二宮大輝・渡辺沙也子選手

第34回関東実業団対抗テニスリーグ戦

2019年9月6日(金)~8日(日) 会場:山梨県小瀬スポーツ公園テニスコート



関東1都7県から男子16チーム、女子12チームが参加。台風接近のため、最終日日程の一部を前日に実施して、全国大会出場チームを決定し、無事に閉会しました。本大会では、全国大会代表チームの男子は全て東京都のチームとなり、今後の実業団のレベルアップのためには、東京以外の地域の奮起が重要であると思われました。女子は参加チームが前年よりも2地域増えましたが、開催要項のチーム編成改正による成果であります。

一方、山梨県の公認ゆるきゃら武田菱丸が大会マスコットとして参加したことで山梨県と本大会のPRができ、菱丸によるジャンケンゲームでは懇親夕食会がおおいに盛り上がりました。

稿を終えるにあたり本大会運営関係者各位の多大なる御支援、御協力に深謝いたします。



【男子】	チーム名	都県名	【女子】	チーム名	都県名
優勝	東京海上日動	東京	優勝	ルネサンス	千葉
準優勝	MS&AD 三井住友海上	東京	準優勝	三菱 UFJ 銀行	東京
3位	テニスユニバース	東京	3位	明治安田生命	東京
4位	三井不動産	東京	4位	損保ジャパン日本興亜	東京
5位	三菱 UFJ 銀行	東京	5位	みずほフィナンシャル G	東京
6位	ブリヂストンスポーツアリーナ	埼玉	6位	京葉銀行	千葉

東京海上日動は初優勝

ルネサンスは初出場、初優勝

第43回全日本都市対抗テニス大会

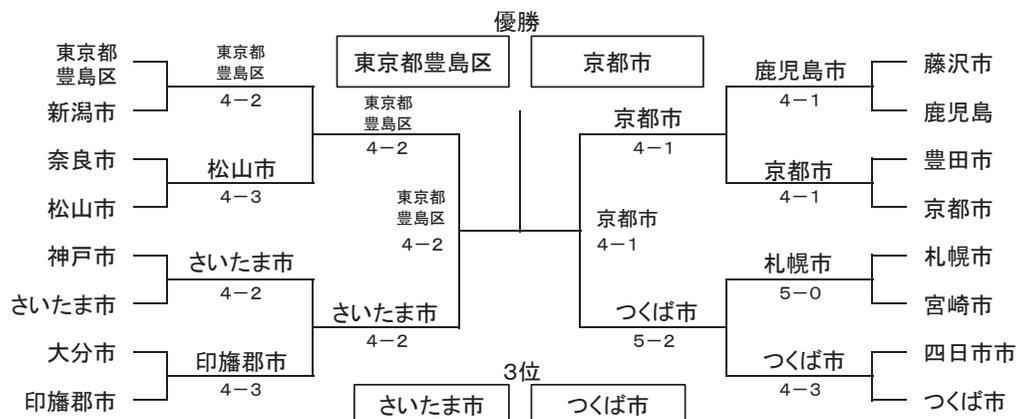
(2020燃ゆる感動かごしま国体 テニス競技リハーサル大会)

2019年7月18日(木)～21日(日) 於: 鹿児島県立鴨池庭球場



関東地区は前年優勝のつくば市および東京都豊島区、藤沢市、印旛郡市、さいたま市、宇都宮市、高崎市の7チームが出場した。異常気象ともいえる梅雨前線の停滞、大雨の予報のため、全試合6ゲームマッチ(ノーアド)と厳しいものになったが、関東勢はベスト4に東京都豊島区、さいたま市、つくば市の3都市、ベスト8に印旛郡市が勝ち残るなど、実力を発揮した。決勝戦は1シードの東京都豊島区と3シードの京都市の対戦となったが最終日の豪雨のため両都市の優勝となった。

次年度参加枠は、全国9地域に基礎枠24を配分したところに、過去2年の成績を配点して算出したドント配分枠を追加して決める。四日市市で開催される2021三重とこわか国体リハーサル大会の参加枠は、優勝の東京都豊島区を含めて関東地区8枠を獲得した。



第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体2019)テニス競技

2019年9月29日(日)～10月2日(水) 於: 神栖市神栖海浜庭球場

関東勢は成年男子が昨年、埼玉の4位入賞のみであったが、今年は5位埼玉、6位茨城、7位東京、8位千葉の4都県が入賞し上位勢力に復帰した。成年女子は1位埼玉、4位東京、5位茨城、7位千葉と昨年を上回る圧倒的な勢いであった。少年男子は1位埼玉、6位千葉、8位神奈川、少年女子が2位神奈川、3位埼玉、5位千葉と堅実に上位成績をおさめた。

テニス競技天皇杯(男女総合成績)は、1位埼玉、4位千葉、7位神奈川が入賞、テニス競技皇后杯(女子総合成績)は、1位埼玉、4位神奈川、6位千葉、7位東京の入賞となった。埼玉県は全種目に入賞、成年女子、少年男子が優勝し、天皇杯、皇后杯とも2連覇と昨年に続き素晴らしい活躍であった。

次年度国体参加枠は、全国9地域に基礎枠24を配分したところに、過去2年の成績を配点して算出したドント配分枠を追加して決める。2020年第75回燃ゆる感動かごしま国体の参加枠は、成年男子6枠、成年女子8枠を獲得した。

第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体2019) テニス競技1位～8位 成績一覧表

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子		天皇杯(男女総合)		皇后杯(女子総合)
1位	三重県	埼玉県	埼玉県	兵庫県	1位	埼玉県	1位	埼玉県
2位	愛媛県	三重県	兵庫県	神奈川県	2位	三重県	2位	愛知県
3位	大阪府	愛知県	三重県	埼玉県	3位	兵庫県	2位	兵庫県
4位	岡山県	東京都	福岡県	岡山県	4位	千葉県	4位	神奈川県
5位	埼玉県	茨城県	京都府	千葉県	4位	岡山県	4位	三重県
6位	茨城県	愛媛県	千葉県	京都府	4位	愛媛県	6位	千葉県
7位	東京都	千葉県	静岡県	愛知県	7位	神奈川県	7位	東京都
8位	千葉県	京都府	神奈川県	大阪府	7位	愛知県	7位	岡山県
					7位	京都府		

第28回指導者のためのリフレッシュ講習会

2019年7月7日(日) 東洋学園大学 本郷キャンパス(教室及び体育館)



主催:関東テニス協会 公認:(公財)日本テニス協会

参加者数:89名 受講料:5,000円 ポイント:指導者研修 2ポイント 公認審判員資格者 2ポイント

講師:岡川 恵美子氏(日本テニス協会B級審判員、B級レフェリー ITFホワイトバッジ)

佐藤 淳一氏(関東テニス協会 普及指導委員会 委員長)

梶木 聖氏(日本テニス協会 普及指導委員会 委員長)

講習会の概要:

○JTAルールブック2019年度版 追記および改定について

試合中に起こる間違いやすい事例の解説に受講者の関心も高く活発な質疑応答であった。

○日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度改定について

JTAコーチング委員会の役割、制度改定として、変遷、資格名称の変更、新資格「スタートコーチ」の説明があった。

○小学校の体育で導入されるテニス型授業(テニピン)の紹介と実践および初心者向けプログラムとしての応用

テニピンの実技演習を通して初心者の導入プログラムとして有効であると感じられた。



委員会よりお知らせ



〈審判委員会〉

2019年3月9日国立オリンピック記念青少年総合センターにて関東テニス協会主催のルール講習会が開催されました。昨年は申込者が多数あり会場定員の関係で受講できない方が出ってしまったため、今年は200人室を確保し、申込者全員160名が受講することができました。

講師の岡川恵美子氏は現役時代には全日本選手権優勝・フェド杯日本代表という日本女子テニス界をリードしてきた選手で現在は国内の数多くの国際大会でレフェリー、主審として活躍されています。

講習会ではセルフジャッジの方法、RUがミスジャッジを目撃した場合の対処、雷の対処、トレットブレイクの回数など今年のルール改正点について解説していただきました。更に、実際に大会で経験したトラブルの対処事例なども説明していただきました。

次回は2020年3月8日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターの200人室を確保いたしましたので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

